

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編1 あはれ

年 組 氏名

あはれ	① しみじみとしたおもむきがある。
	② すばらしい (美しい かわいい 面白い 懐かしい やさしい)
	③ いたましい (悲しい さびしい かわいそうだ)
	④ ああ!

【解説】

- ・現代かなづかいでは「あわれ」です。
- ・「心深く感動したときのことば」です。
- ・「しみじみとした感動をおぼえる」と理解しておくこと、応用がききます。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「ああ、我われ、しみじみとしたおもむきを感じる」

【問題】

「あはれ」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。
《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 からすの、寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへ、あはれなり。
〔枕草子〕

《現》

2 心なき身にもあはれは知られけり
〔新古今和歌集〕

感情を捨てたはずの私の身にも、
()はわいてくるものだなあ。

3 あはれ、しつるせうとくかな。
〔宇治拾遺物語〕

だ()よ。 ()、これはたいへんなもうけもの

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編1 あはれ

年 組 氏名

あはれ	① しみじみとしたおもむきがある。
	② すばらしい (美しい かわいい 面白い 懐かしい やさしい)
	③ いたましい (悲しい さびしい かわいそうだ)
	④ ああ!

【解説】

- ・現代かなづかいでは「あわれ」です。
- ・「心深く感動したときのことば」です。
- ・「しみじみとした感動をおぼえる」と理解しておくこと、応用がききます。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「ああ、我われ、しみじみとしたおもむきを感じる。」

【解答】

- | | | |
|--|---|--|
| <p>3
あはれ、しつるせうとくかな。
〔宇治拾遺物語〕
（ああ）、これはたいへんなもうけものだよ。</p> | <p>2
心なき身にもあはれは知られけり
〔新古今和歌集〕
感情を捨てたはずの私の身にも、（おもむき）はわいてくるものだなあ。</p> | <p>1
からすの、寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへ、あはれなり。
〔枕草子〕
からすが、巢へ帰ろうとして、三羽四羽、二羽三羽などと、飛び急ぐのまでも、しみじみとしたおもむきがある。</p> |
|--|---|--|

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編2 あまた

年 組 氏名

あまた	① たくさん 数多く
	② ひどく 非常に

【解説】

- ・「あまた」は、漢字では「数多」と書きます。
- ・奈良時代には①②の両方の意味で使われていましたが、平安時代以降はほとんど①の意味で使われています。
- ・今でも「引く手あまた（たくさんの人に求められる）」という言葉が残っていますね。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「あ、また、たくさんあるね。」

【問題】

「あまた」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。
 《現》 とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 いづれの御時にか、女御・更衣あまたさぶらひ給ひける中に：

〔源氏物語〕

どの「帝の時代」であつたらうか、女御・更衣が()お仕えしていらつしやつた中に：

〔徒然草〕

2 人 あまた 誘ひて：

《現》

3 草枕 旅行く君を 人目多み袖振らずして あまたくやしも

〔万葉集〕

旅に出発するあなたを
 人の目が多くなるので、
 袖も振らずに別れてしまった。
 それが一くやしいことだ。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編2 あまた

年 組 氏名

あまた	① たくさん 数多く
	② ひどく 非常に

【解説】

- ・「あまた」は、漢字では「数多」と書きます。
- ・奈良時代には①②の両方の意味で使われていましたが、平安時代以降はほとんど①の意味で使われています。
- ・今でも「引く手あまた（たくさんの人に求められる）」という言葉が残っていますね。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「あ、また、たくさんあるね。」

【解答】

1 いづれの御時にか、女御・更衣あまたさぶらひ給ひける中に…

〔源氏物語〕

どの「帝の時代」であつたらうか、女御・更衣が（数多く）お仕えしていらつした中に…

2 人 あまた 誘ひて…

〔徒然草〕

人をたくさん誘つて…

3

草枕 旅行く君を 人目多み袖振らずして あまたくやしも

〔万葉集〕

旅に出発するあなたを人の目が多いのので、袖も振らずに別れてしまった。それが（ひどく）くやしいことだ。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編3 あやし

年 組 氏名

あやし	① 不思議である（神秘的だ）
	② 疑わしい（変だ）
	③ 身分が低い（いやしい）

【解説】

- ・「あやし」のもともとの意味は「**不思議だ**」です。
- ・平安時代の貴族からすると、「身分の低い」庶民の暮らしは「**不思議**」で「**見苦しく**」思えたのです。そこから、意味が増えていきました。
- ・「あやし」は「**いやし（い）**」に意味が似ています。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「あ、屋敷[やしき]が、不思議なくらい見苦しい。」

<p>3</p> <p>あやしき家の見どころなき梅の木 などには、かしがましきまでぞ鳴く</p> <p>〔枕草子〕</p>	<p>2</p> <p>あづまぢの道のはてよりも、なほ 奥つかたに生ひ出でたる人、 いかばかりかあやしかりけむを…</p> <p>〔更級日記〕</p>	<p>1</p> <p>もと光る竹なむ一筋ありける。 あやしがりて寄りて見るに 筒の中光りたり。</p> <p>〔竹取物語〕</p>	<p>【問題】</p> <p>「あやし」の意味を参考に、（ ）に あてはまる言葉を答えなさい。 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
---	---	--	--

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編3 あやし

年 組 氏名

あやし	① 不思議である（神秘的だ）
	② 疑わしい（変だ）
	③ 身分が低い（いやしい）

【解説】

- ・「あやし」のもともとの意味は「**不思議だ**」です。
- ・平安時代の貴族からすると、「身分の低い」庶民の暮らしは「**不思議**」で「**見苦しく**」思えたのです。そこから、意味が増えていきました。
- ・「あやし」は「**いやし**（い）」に意味が似ています。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「**あ**、屋敷**[やしき]**が、**不思議**なくらい**見苦しい**。」

【解答】

1
もと光る竹なむ一筋ありける。
あやしがりて寄りて見るに
筒の中光りたり。

「竹取物語」

根元の光る竹が一本あった。
不思議に思つて
近寄つて見ると筒の中が光っている。

2
あづまぢの道のはてよりも、なほ
奥つかたに生ひ出でたる人、
いかばかりかあやしかりけむを：

「更級日記」

東国の道の果てよりも、もつと
奥の田舎に生まれ成長した私は、
どんなにか（いや）しかつた（ろう）か：

3
あやしき家の見どころなき梅の木
などには、かしがましきまでぞ鳴く

「枕草子」

梅（粗末）な家の見栄えもしないまで
鳴く。木には「鶯が」やかましいまでに

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編4 ありがとう

年 組 氏名

ありがとう	① めったにない (めずらしい)
	② 優れている (関心である)
	③ 尊い (もったいない おそれおおい)
	④ 難しい (困難だ)

【解説】

- ・「ありがとう」は、漢字では「有り難し」と書きます。
- ・つまり「有ることが難しい」ほど、「めったにない尊い」ものを意味します。
- ・現代の「ありがとう」は、この「ありがとう」から出来た言葉です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「蟻ありがたしかに巢を守るため働くのは、難しく、尊く、めったにない。」

1 ありがたきもの。舅「しゅうと」に
ほめらるる婿「むこ」。
〔枕草子〕

《現》

2 後の宮の姫君こそ、ありがたき
御かたち人になむ。
〔源氏物語〕

3 後の宮の姫君こそは、
ご容貌「ようぼう」の方でございます。
さるべきついでなくては、対面も
ありがたければ
〔平家物語〕

適切な機会がなくては、会うことも
ないので

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編4 ありがとう

年 組 氏名

ありがとう	① めったにない (めずらしい)
	② 優れている (関心である)
	③ 尊い (もったいない おそれおおい)
	④ 難しい (困難だ)

【解説】

- ・「ありがとう」は、漢字では「有り難し」と書きます。
- ・つまり「有ることが難しい」ほど、「めったにない尊い」ものを意味します。
- ・現代の「ありがとう」は、この「ありがとう」から出来た言葉です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「蟻[あり]がたしかに巣を守るため働くのは、難しく、尊く、めったにない。」

【解答】

1 ありがとうきもの。舅「しゅうと」に
ほめらるる婿「むこ」。

「枕草子」

ほめられたにないもの、舅に
婿。

2 後の宮の姫君こそ、ありがたき
御かたち人になむ。

「源氏物語」

後の宮の姫君こそは、
（めったにないほど優れている）
ご容貌「ようぼう」の方でございます。

3 さるべきいでなくては、対面も
ありがたければ

「平家物語」

（むずかしい）のでは、会うことも
適当な機会がなくては

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編5 いたづらなり

年 組 氏名

いたづらなり	① むだである（役にたたない）
	② むなしい（はかない）
	③ ひまである（たいくつだ てもちぶさただ）

【解説】

- ・「いたづらなり」は、漢字では「徒らなり」と書きます。
- ・「役に立たない」「むなしい」が基本的な意味です。
- ・「いたづらになる」は、「命がむなしくなる」から「死ぬ」の意味になります。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「いたづら電話、ひまだからって、むなしいね。」

【問題】

「あやし」の意味を参考に、（ ）に
あてはまる言葉を答えなさい。
《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 とかく直しけれども、つひに回らで、
いたづらに立てりけり。

〔徒然草〕

あれこれと修理したが、「水車は」
とうとう回らなくなった。（ ）

（ ）

2 花の色は移りにけりな
我が身世にふるながめせしまに

〔古今和歌集〕

《現》

3 舟も出いださでいたづらなれば、

〔土佐日記〕

舟も出さなくて（ ）

（ ）なので、

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編5 いたづらなり

年 組 氏名

いたづらなり	① むだである（役にたたない）
	② むなしい（はかない）
	③ ひまである（たいくつだ てもちぶさただ）

【解説】

- ・「いたづらなり」は、漢字では「徒らなり」と書きます。
- ・「役に立たない」「むなしい」が基本的な意味です。
- ・「いたづらになる」は、「命がむなしくなる」から「死ぬ」の意味になります。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「いたづら電話、ひまだからって、むなしいね。」

【解答】

1
とかく直しけれども、つひに回らで、
いたづらに立てりけり。
〔徒然草〕

あれこれと修理したが、「水車は」
とうとう回らなくて、（むだに）
立っていらなかった。

2
花の色は移りにけりないたづらに
我が身世にふるながめせしまに
〔古今和歌集〕

桜の花の色はすっかり色あせて
しまつたことだなあ。
むなしく時間を過ごした
長雨が降り続いていた間に。

3
舟も出いさなくて（ひま）なので、
舟も出いさなくて（ひま）なので、
〔土佐日記〕

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編6 いと・いとど

年 組 氏名

いと	① とても (たいそう 非常に)
	② [打消しをともなって] たいして (それほどは)
いとど	① いっそう (ますます)
	② そのうえさらに

【解説】

- ・「いと」は、程度がはなはだしい様子。
- ・「いとど」は、以前に比べていっそう程度がはなはだしい様子。
- ・よく出てくる単語なので、しっかり理解しておきましょう。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「一等 [いっとう]、とても すごい!」
- ・「一等 [いっとう] なんて、たいして すごくない。」

【問題】

「いと・いとど」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。

1 その里に、いとなまめいたる女はらから
住みにけり。 「伊勢物語」

その里に、()
住んでいた。() 美しい姉妹が

2 いやむごとなき際にはあらぬが
いとやむごとなき際にはあらぬが 「源氏物語」

()
ないが () 高貴な家柄の出身では

3 ところどころを語るを聞くに、いとどゆかし
さまされど。 「更級日記」

()
「物語の」ところどころを話すのを聞くと、
けれど。() 読みたい気持ちがつくる

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編6 いと・いとど

年 組 氏名

いと	① とても (たいそう 非常に)
	② [打消しをともなつて] たいして (それほどは)
いとど	① いっそう (ますます)
	② そのうえさらに

【解説】

- ・「いと」は、程度がはなはだしい様子。
- ・「いとど」は、以前に比べていっそう程度がはなはだしい様子。
- ・よく出てくる単語なので、しっかり理解しておきましょう。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「一等[いっとう]、とてもすごい!」
- ・「一等[いっとう]なんて、たいして すごくない。」

【解答】

1 その里に、いとなまめいたる女はらから
住みにけり。

「伊勢物語」

その里に、(たいそう)美しい姉妹が
住んでいた。

2 いとやむごとなき際にはあらぬが

「源氏物語」

(たいして)高貴な家柄の出身では
ないが

3 ところどころを語るを聞くに、いとどゆかし
さまされど。

「更級日記」

「物語の」ところどころを話すのを聞くと、
けれど。読みたい気持ちがつる

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編7 いみじ

年 組 氏名

いみじ	① たいそう (はなはだしい たいへんだ)
	② すばらしい (立派だ すぐれている うれしい)
	③ ひどい

【解説】

- ・「忌む」から派生した言葉で、本来は不吉として避けたい感じを表します。良いにつけ悪いにつけ不吉なほど「程度がはなはだしい」状態をさします。
- ・前後の文章の内容にあわせて、「いみじ」(すばらしい)なのか、「いみじ」(ひどい)なのか、考えて訳していきましょう。
<楽しみながら覚えよう!>
- ・「意味、じっくり考えるのは、たいそう、すばらしい。」

〔問題〕

「いみじ」の意味を参考に、()にあてはまる言葉を答えなさい。

1 あないみじ。犬を蔵人二人してうち給ふ。
死ぬべし。 [枕草子]

まあ()。犬を蔵人が二人でお打ちになっている。死ぬにちがいない。

2 世はさだめなきこそ、いみじけれ。 [徒然草]

()。人生とは、無常であるからこそ()のだなあ。

3 昔の人は、いささかのことをも、いみじく自賛したなるなり。 [徒然草]

()。昔の人は、ちょっとしたことでも()自慢したものだ。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編7 いみじ

年 組 氏名

いみじ	① たいそう (はなはだしい たいへんだ)
	② すばらしい (立派だ すぐれている うれしい)
	③ ひどい

【解説】

- ・「忌む」から派生した言葉で、本来は不吉として避けたい感じを表します。良いにつけ悪いにつけ不吉なほど「程度がはなはだしい」状態をさします。
- ・前後の文章の内容にあわせて、プラスの意味で「いみじ」(すばらしい)なのかマイナスの意味で「いみじ」(ひどい)なのか、考えて訳していきましょう。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「意味、じっくり考えるのは、たいそう、すばらしい。」

【解答】

1 あないみじ。犬を蔵人二人してうち給ふ。死ぬべし。
〔枕草子〕

まあ(ひどい)。犬を蔵人が二人でお打ちになっている。

2 世はさだめなきこそ、いみじけれ。
〔徒然草〕

人生とは、無常であるからこそ(すばらしい)のだなあ。

3 昔の人は、いささかのことをも、いみじく自賛したなるなり。
〔徒然草〕

昔の人は、ちよつとしたことでも(たいそう)自慢したものだ。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編8 うし

年 組 氏名

うし	① つらい (苦しい)
	② 嫌だ (憂鬱だ 気が進まない 恨めしい)
	③ つれない (無常だ 冷淡だ)

【解説】

- ・漢字であらわすと「憂し」です。読み方も出ることがあるので注意してください。
- ・自分の思い通りにならなくて、つらい状態のときに使う言葉です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「牛[うし]に乗るのは、つらい、嫌だ、憂鬱だ」

【問題】

「うし」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。

1 世の中をうしとやさしと思へども
飛び立ちかねつ鳥にしあらねば

【万葉集】

この世の中を()
耐え難いと思うけれど
飛び立つこともできかねる。
鳥ではないので。

()

2 古代の親は、宮仕えはいと
うきことなりと思ひて

【更級日記】

昔かたぎの親は、宮仕え人
になるのは、とても
() ことだと思つて

3 人ぞうき たのめぬ月は

めぐり来て
【新古今和歌集】

に「あの」人は()
して「あ」なかつた月はまた巡つてきて
() ことだ。あて

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編8 うし

年 組 氏名

うし	① つらい (苦しい)
	② 嫌だ (憂鬱だ 気が進まない 恨めしい)
	③ つれない (無常だ 冷淡だ)

【解説】

- ・漢字であらわすと「憂し」です。読み方も出ることがあるので注意してください。
- ・自分の思い通りにならなくて、つらい状態のときに使う言葉です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「牛[うし]に乗るのは、つらい、嫌だ、憂鬱だ」

【解答】

1 世の中をうしとやさしと思へども
飛び立ちかねつ鳥にしあらねば

〔万葉集〕

この世の中を（つらく）
耐え難いと思ふけれど
飛び立つこともできかねる。
鳥ではないので。

2 古代の親は、官仕えはいと
うきことなりと思ひて

〔更級日記〕

昔かたぎの親は、官仕え人
になるのは、とても
（いやな）ことだと思つて

3

人ぞうき たのめぬ月はめぐり来て
「新古今和歌集」

「あの人はつれないことだ。あてに
してもいなかっただよもつて来て……」

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編9 うつくし

年 組 氏名

うつくし	① [小さくて] 可愛い (愛らしい)
	② 愛しい
	③ きれいだ (うるわしい)
	④ 立派だ (優れている みごとだ)

【解説】

- ・奈良時代は「肉親に対する愛しい気持ち」をあらわす単語でした。平安時代には「小さくて可愛らしい」ものをあらわすようになり、徐々に「立派だ・優れている」という、現在の「美しい」の意味に近づいていったのです。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「う、つくし、可愛い!」

【問題】

「うつくし」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。

《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 うつくしきもの、瓜にかきたる稚児の顔。
〔枕草子〕

2 瓜に描いた幼児の顔。
()もの、
〔竹取物語〕

《現》

3 かの木の道のたくみの造れる、
うつくしきうつは物も
〔徒然草〕

あの細工師の作った()
器物も。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編9 うつくし

年 組 氏名

うつくし	① [小さくて] 可愛い (愛らしい)
	② 愛しい
	③ きれいだ (うるわしい)
	④ 立派だ (優れている みごとだ)

【解説】

- ・奈良時代は「肉親に対する愛しい気持ち」をあらわす単語でした。平安時代に「小さくて可愛らしい」ものをあらわすようになり、徐々に「立派だ・優れている」という、現在の「美しい」の意味に近づいていったのです。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「う、つくし、可愛い!

【解答】

1 うつくしきもの、瓜にかきたる稚児の顔。
〔枕草子〕

瓜（かわいらしい）もの、
瓜に描いた幼児の顔。

2 とうつくしうてあたり

座とてもかわいらしい様子で

〔竹取物語〕

3 かの木の道のたくみの造れる、
うつくしきうつは物も

〔徒然草〕

あの細工師の作った（見事な）
器物も。

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編10 うつつ

年 組 氏名

うつつ	① 現実（生きている状態）
	② 正気（目が覚めている状態 意識がはっきりしている状態）
	<うつつせみ・うつつそみ>…この世の人、この世
	<うつつどころ>…正気、平常心、しっかりした心

【解説】

- ・漢字では「現」と書いて「うつつ」と読み、現実に存在する様子をあらわします。
- ・現代でも「夢かうつつか、まぼろしか」というような形で使いますね。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「うつ、つねると痛い、現実だ。」

【問題】

「うつつ」の意味を参考に、（ ）にあてはまる言葉を答えなさい。

1 うつつのわが身ながら、
さるうとまじきことを言ひつけらるる
宿世の憂きこと

〔源氏物語〕

（ ）に生きているわが身の
まま、そんな忌まわしいことを
言いたてられるこの運命のつらいこと

2 駿河なる宇津の山べのうつつにも
夢にも人に逢はぬなりけり

〔伊勢物語〕

駿河にある宇津の山のほとり、その、
（ ）でも、夢でも、あなたに
お逢いしなかったのです。

3 うつつにも似ず、たけく厳つき
ひたぶる心出できてうちかなぐる。

〔源氏物語〕

（ ）の時とは違って、荒々しく
一途な恨み心が出てきて、乱暴にひっぱる。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編10 うつつ

年 組 氏名

うつつ	① 現実（生きている状態）
	② 正気（目が覚めている状態 意識がはっきりしている状態）
	<うつつせみ・うつつそみ>…この世の人、この世
	<うつつしごころ>…正気、平常心、しっかりした心

【解説】

- ・漢字では「現」と書いて「うつつ」と読み、現実に存在する様子をあらわします。
- ・現代でも「夢かうつつか、まぼろしか」というような形で使いますね。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「うつ、つねると痛い、現実だ。」

【解答】

1 うつつのわが身ながら、
さるうとまじきことを言ひつけらるる
宿世の憂きこと

〔源氏物語〕

（現実）に生きているわが身の
ままたそんな忌まわしいことを
言いたてられるこの運命のつらいこと

2 駿河なる宇津の山べのうつつにも
夢にも人に逢はぬなりけり

〔伊勢物語〕

駿河にある宇津の山のほとり、その、
（現実）でも、夢でも、あなたに
お逢いしなかつたのでした。

3 うつつにも似ず、たけく厳つき
ひたぶる心出できてうちかなぐる。

〔源氏物語〕

（正気）の時とは違って、荒々しく
一途な恨み心が出てきて、乱暴にひっぱる。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編11 おどろく

年 組 氏名

おどろく	① びっくりする
	② はっと気づく
	③ 目を覚ます (起きる 眠りから覚める)
	<おどろかす>・・・びっくりさせる 目をさまさせる

【解説】

- ・現代の「おどろく」の意味と違う使い方をすることが多いので、注意しましょう。
- ・前後の文章に「夢」「鶏」などの言葉があれば「目を覚ます」の意味です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「夢におどろく、目が覚める。」

<p>3</p> <p>ものにおそはるる心地して、 おどろき給へれば、火も消えにけり 〔源氏物語〕</p> <p>（ 物の怪に襲われる気持ちにして、 火も消えてしまっていた。） なさったところ、</p>	<p>2</p> <p>秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞおどろかれぬる 〔古今和歌集〕</p> <p>《現》</p>	<p>1</p> <p>おどろきて見れば、歌あり。 〔伊勢物語〕</p> <p>（ 和歌が書いてある。 ）て見ると、</p>	<p>【問題】</p> <p>「おどろく」の意味を参考に、（ ）にあてはまる言葉を答えなさい。 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
---	--	--	--

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編11 おどろく

年 組 氏名

おどろく	① びっくりする
	② はっと気づく
	③ 目を覚ます（起きる 眠りから覚める）
	<おどろかす>…びっくりさせる 目をさまさせる

【解説】

- ・現代の「おどろく」の意味と違う使い方をすることが多いので、注意しましょう。
- ・前後の文章に「夢」「鶏」などの言葉があれば「目を覚ます」の意味です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「夢におどろく、目が覚める。」

【解答】

1 おどろきて見れば、歌あり。

〔伊勢物語〕

（びっくりし）て見ると、
和歌が書いてある。

2 秋来ぬと目にはさやかに見えぬも
風の音にぞおどろかれぬる

〔古今和歌集〕

秋がきたと目にははつきり見えなけれど
風の音で自然にははっと気づかされる
ことだよ。

3 ものにおそはる心地して、
おどろき給へれば、火も消えにけり
〔源氏物語〕

（物の怪に襲われる気持ちで、
目をおさまして）なすったところ、
火も消えてしまっていた。

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編12 おもしろし

年 組 氏名

おもしろし	① 見事だ (美しい 趣深い)
	② 興味深い
	③ 楽しい 愉快である

【解説】

- ・「面（おも）」が「白し」で、様子がはっきり表面にあらわれ、目の前がぱっと明るくなる感じをさします。
- ・景色や風物のすばらしさを形容する言葉です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「尾[お]も白い、…見事だ。」

<p>3</p> <p>その沢に、かきつばたの花が とてもへ、咲いていた</p> <p>「伊勢物語」</p>	<p>2</p> <p>雪のいとおもしろう降りたる朝、 人のがり言ふべきことありて</p> <p>「徒然草」</p>	<p>1</p> <p>学問をし侍りしときに、 心地常におもしろく、 頼もしく、思ふことなく侍りし</p> <p>「宇津保物語」</p>	<p>【問題】</p> <p>「おもしろし」の意味を参考に、（ ）に あてはまる言葉を答えなさい。 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
--	--	--	--

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編12 おもしろし

年 組 氏名

おもしろし	① 見事だ (美しい 趣深い)
	② 興味深い
	③ 楽しい 愉快である

【解説】

- ・「面（おも）」が「白し」で、様子がはっきり表面にあらわれ、目の前がぱっと明るくなる感じをさします。
- ・景色や風物のすばらしさを形容する言葉です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「尾[お]も白い、…見事だ。」

【解答】

1 学問をし侍りしときに、
心地常におもしろく、
頼もしく、思ふことなく侍りし

「宇津保物語」

学問をしておりました時は、心の中は
いつも（楽しく）、将来が期待でき
心配事はありませんでした。

2 雪のいとおもしろう降りたる朝、
人のがり言ふべきことありて

「徒然草」

雪が趣深く降っていた朝、
ある人のところに行かねばならない
ことがあって

3 その沢にかきつばたり
いとおもしろく咲きたり

「伊勢物語」

その沢に、深きつばいたの花が
とても（趣深く）咲いていた

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編13 かく

年 組 氏名

かく	①[副詞:斯く] このように (こう)
	②[動詞:掛く・懸く] ぶらさげる 心にとめる 話しかける 目指す
	②[動詞:搔く] 引っかく 弾く 切り取る 払いのける くしけずる

【解説】

- ・「かく」にも、色々な意味がありますが、ひとまず副詞の「このように」をしっかりと理解しておきましょう。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「搔[か]く」と、このように、腫れました。」

<p>4</p> <p>かくて翁やうやう豊かになりゆく。</p> <p>〔竹取物語〕</p> <p>《現》</p>	<p>3</p> <p>かくてもあられけるよと、</p> <p>〔徒然草〕</p> <p>() 生活することができるとのなあと、</p>	<p>2</p> <p>かくて都にあるならば、</p> <p>また憂き目も見んずらん</p> <p>〔平家物語〕</p> <p>() 都にあるならば、</p> <p>またつらいめにもあうだろう。</p>	<p>1</p> <p>かく危ふき枝の上にて、安き心ありて</p> <p>ねぶるらんよ。</p> <p>〔徒然草〕</p> <p>() あぶない枝の上で、</p> <p>どうして安らかな気持ちで眠っているのだろうかよ。</p>	<p>【問題】</p> <p>「かく」の意味を参考に、() に</p> <p>あてはまる言葉を答えなさい。</p> <p>《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
---	---	--	--	--

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編13 かく

年 組 氏名

かく	①[副詞:斯く] このように (こう)
	②[動詞:掛く・懸く] ぶらさげる 心にとめる 話しかける 目指す
	②[動詞:搔く] 引っかく 弾く 切り取る 払いのける くしけずる

【解説】

- ・「かく」にも、色々な意味がありますが、ひとまず副詞の「このように」をしっかりと理解しておきましょう。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「搔[か]くと、このように、腫れました。」

【解答】

- | | | | |
|--|-------------------------------------|---|---|
| <p>4
かくて翁やうやう豊かになりゆく。
なこうして、翁はしだいに豊かになつてゆく。
〔竹取物語〕</p> | <p>3
かくてもあられけるよと、
〔徒然草〕</p> | <p>2
かくて都にあるならば、
また憂き目も見んずらん
〔平家物語〕</p> | <p>1
かく危ふき枝の上にて、安き心ありてねぶるらんよ。
〔徒然草〕</p> |
|--|-------------------------------------|---|---|

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編14 かち

年 組 氏名

かち	徒歩
----	----

【解説】

- ・ 乗り物に乗らず、歩いて行くことです。
- ・ 平安時代の人々は、よく歩きました。一日で男性は40 k m、女性は25 k m歩いたと言われています。
- ・ 「徒然草」第五十二段に登場する、仁和寺の法師は、老いた身でありながら、往復約40 k mの距離をたったひとりで歩いたということです。健脚ですね。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・ 「かちかち山を、徒歩で歩く。」

【問題】

「かち」の意味を参考に、()にあてはまる言葉を答えなさい。
 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 よろしき女房も壺装束などして、
かちの者どももうちまじれり

〔増鏡〕

相当な身分の女房も壺装束
などになつて、()の
者達もまじっている。

()の

2 ただひとり、かちより詣でけり

〔徒然草〕

《現》

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編14 かし

年 組 氏名

かし

徒歩

【解説】

- ・ 乗り物に乗らず、歩いて行くことです。
- ・ 平安時代の人には、よく歩きました。一日で男性は40 km、女性は25 km歩いたと言われていました。
- ・ 「徒然草」第五十二段に登場する、仁和寺の法師は、老いた身でありながら、往復約40 kmの距離をたったひとりで歩いたということです。健脚ですね。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・ 「かしかし山を、徒歩で歩く。」

【解答】

1 よろしき女房も壺装束などして、
かちの者どももうちまじれり

「増鏡」

（相当な身分の女房も壺装束などになって、
（徒歩）の者達もまじっている。

2 ただひとり、かちより詣でけり

「徒然草」

ただ一人で、徒歩で参詣した。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編15 かなし

年 組 氏名

かなし	① 愛おしい (かわいい 強く心惹かれる)
	② 悲しい (かわいそうだ 心がいたむ)
	③ 貧しい (やりくりがつかない)

【解説】

- ・かなしには「愛しい」と「悲しい」の意味がありますが、問題で問われるのは、「愛しい」の方です。
- ・人に対しては、情愛が痛切で胸がつまる感じ、自然に対しては深く心を打たれる感じをあらわします。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「カナしかいない、可愛いよ。」

【問題】

「かなし」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。
 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 限りなくかなしと思ひて

〔伊勢物語〕

この上なく()
思つて

()と

2

多摩川にさらす手作りさらさらになにそこの見のここだ愛しき

〔万葉集〕

《現》

3

ひとつ子にさへありければ、いとかなしうし給ひけり。

〔伊勢物語〕

一人つ子でもあったので、大変()なさった。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編15 かなし

年 組 氏名

かなし	① 愛おしい (かわいい 強く心惹かれる)
	② 悲しい (かわいそうだ 心がいたむ)
	③ 貧しい (やりくりがつかない)

【解説】

- ・かなしには「愛しい」と「悲しい」の意味がありますが、問題で問われるのは、「愛しい」の方です。
- ・人に対しては、情愛が痛切で胸がつまる感じ、自然に対しては深く心を打たれる感じをあらわします。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「カナしかいない、可愛いよ。」

【解答】

1 限りなくかなしと思ひて

この上なく(いとしい)と思つて

〔伊勢物語〕

2 多摩川にさらす手作りさらさらになにその児のここだ愛しき

多摩川に「洗い乾かす」手織りの布のよう、洗いで乾かすこの子がこんなにもいとしいのだろう

〔万葉集〕

3

ひとつ子にさへありければ、いとかなしうし給ひけり。

〔伊勢物語〕

一人っ子でもあったので、大変へかわいがりなされた。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編16 くちをし

年 組 氏名

くちをし	① 残念だ (がっかりだ 期待はずれだ くやしい 情けない)
	② 感心しない (つまらない 物足りない)
	③ 嫌だ
	④ 卑(いや)しい

【解説】

- ・漢字では「口惜し」と書きます。
- ・期待通りにいかず、どうにもならない状態を惜しむ気持ちです。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「口をしくじり、残念だ。」

【問題】

「くちをし」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。
《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 あはれ、弓矢取る身ほどくちをしかりけるものはなし。
〔平家物語〕

《現》

2 家の内を行ひ治めたる女、いとくちをし。

〔徒然草〕

家の中をきちんと処理している女は、とても()。

3 取る方なく、くちをしき際

〔源氏物語〕

取りえもなく、()

()身分

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編16 くちをし

年 組 氏名

くちをし	① 残念だ (がっかりだ 期待はずれだ くやしい 情けない)
	② 感心しない (つまらない 物足りない)
	③ 嫌だ
	④ 卑(いや)しい

【解説】

- ・漢字では「口惜し」と書きます。
- ・期待通りにいかず、どうにもならない状態を惜しむ気持ちです。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「口をしくじり、残念だ。」

【解答】

1 あはれ、弓矢取る身ほどくちをしかりけるものはなし。
〔平家物語〕

ああ、弓矢を取る身ほど、実に情けないものはない。

2 家の内を行ひ治めたる女、いとくちをし。
〔徒然草〕

家の中をきちちんと処理している女は、とても（つまらない）。

3 取る方なく、くちをしき際
〔源氏物語〕

取りえもなく、（卑しい）身分

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編17 げに

年 組 氏名

げに	① ほんとうに (まったく 実に)
	② いかにも (なるほど)
	<げにげにし>…実直だ もっともだ もっともらしい

【解説】

- ・もともとは「現 (げん) に」の意味だったとも言われています。
- ・他人の言葉を受けて、「なるほど」と納得するような気持ちをあらわします。
- ・相手に対して、あいづちを打ったりするときに使います。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「芸人[げいにん]、本当に、なるほど、うまい。」

<p>3</p> <p>げにげにしく、よき人かなとぞおぼゆる。 〔徒然草〕</p> <p>（ ）、立派な人だなあと思われる。</p>	<p>2</p> <p>またみたる大人、『げに』と うち泣きて 〔源氏物語〕</p> <p>『また、そこにいた年配の女房が、 （ ）と泣いて』</p>	<p>1</p> <p>げにただ人にあらざりけりとおぼして 〔竹取物語〕</p> <p>《現》</p>	<p>【問題】</p> <p>「げに」の意味を参考に、（ ）にあてはまる言葉を答えなさい。 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
--	---	---	--

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編17 げに

年 組 氏名

げに	① ほんとうに (まったく 実に)
	② いかにも (なるほど)
	<げにげにし>…実直だ もっともだ もっともらしい

【解説】

- ・もともとは「現 (げん) に」の意味だったとも言われています。
- ・他人の言葉を受けて、「なるほど」と納得するような気持ちをあらわします。
- ・相手に対して、あいづちを打ったりするようなときに使います。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「芸人[げいにん]、本当に、なるほど、うまい。」

【解答】

1 げにただ人にあらざりけりとおぼして
「竹取物語」

なるほど普通の人ではなかった
のだからとお思ひになつた

2 またみたる大人、「げに」と
うち泣きて
「源氏物語」

「また、そこにいた年配の女房が、
『(ごもつとも)』と泣いて

3 げにげにしく、よき人かなとぞおぼゆる。
「徒然草」
(実直で)、立派な人だなあと思われる。

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編18
ことわり(なり)

年 組 氏名

ことわり	① 道理 (すじみち)
	② 理由
	③ [ことわりなり] 当然である(もつともである)

【解説】

- ・「理」と書いて「ことわり」を読みます。
- ・理の字は「真理・論理」などに使うように、「誰でも正しいと納得するような正しい考え」のことなのです。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「琴[こと]はりっぱに弾くのが道理だ。」

【問題】

「ことわり」の意味を参考に、()にあてはまる言葉を答えなさい。
《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらはす

〔平家物語〕

《現》

2 今までも あるは思ひのほかなれば
身をなげくべき ことわりもなし

〔続古今和歌集〕

今まで生き延びるとは予想していなかったなので、
わが身を嘆く()もない。

3 したり顔におはするを、
あぢきなしと思したる
ことわりなり。

〔源氏物語〕

()「右大臣が」得意顔でいらっしやるのを、
()「左大臣が」苦々しいとお思いになっっているのは

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編18
ことわり(なり)

年 組 氏名

ことわり	① 道理 (すじみち)
	② 理由
	③ [ことわりなり] 当然である(もつともである)

【解説】

- ・「理」と書いて「ことわり」を読みます。
- ・理の字は「真理・論理」などに使うように、「誰でも正しいと納得するような正しい考え」のことなのです。
- ・「断り」と間違えないように。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「琴[こと]はりっぱに弾くのが道理だ。」

【解答】

1

沙羅双樹の花の色

盛者必衰の理をあらはす

〔平家物語〕

沙羅双樹の花の色には、
栄える者は必ず衰えるという
道理があらわれている。

2

今までもあるは思ひのほかなれば
身をなげくべきことわりもなし

今まで生き延びるとは予想して
わが身を嘆く(理由)もない。
〔続古今和歌集〕

3

したり顔におはするを、
あちきなしと思したる、
ことわりなり。

〔源氏物語〕

〔右大臣が〕得意顔でいらつしやるのを、
〔左大臣が〕苦々しいとお思いになつては
(当然である)。

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編19 ちぎり

年 組 氏名

ちぎり	① 約束（取り決め）
	② 〈男女・夫婦の〉縁
	③ 〈前世からの〉因縁・宿命

【解説】

- ・「契り」と書きます。契約の「契」だから、「①約束」を意味します。
- ・「友達になろう」「恋人になろう」と約束するから「②親しい仲」
- ・神や仏が人間に約束してくれたものが「③宿命」です。
- ・「ちぎる」だと、「約束する」という意味になります。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「ち、ぎりぎり、約束の時間だ。」

<p>3 ちぎりおく 花とならびの をかのへに あはれ幾世の 春を過ぐさむ 〔兼好法師家集〕</p> <p>「ある女性と」(「ならびがおか：地名」)にして、桜の木と並んで ああ私にはあと幾世の春を過ぐすことであろうか</p>	<p>2 昔のちぎりありけるによりなむ、 この世にまうで来たる。 〔竹取物語〕</p> <p>《現》 「かぐや姫は」</p>	<p>1 先の世にも御ちぎりや深かりけむ、 世になくきよらなる玉の男御子「みこ」さへ 生まれ給ひぬ。 〔源氏物語〕</p> <p>《現》 とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p> <p>【問題】 「ちぎり」の意味を参考に、() に あてはまる言葉を答えなさい。</p>
--	--	--

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編19 ちぎり

年 組 氏名

ちぎり	① 約束（取り決め）
	② 〈男女・夫婦の〉縁
	③ 〈前世からの〉因縁・宿命

【解説】

- ・「契り」と書きます。契約の「契」だから、「①約束」を意味します。
- ・「友達になろう」「恋人になろう」と約束するから「②親しい仲」
- ・神や仏が人間に約束してくれたものが「③宿命」です。
- ・「ちぎる」だと、「約束する」という意味になります。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「ち、ぎりぎり、約束の時間だ。」

【解答】

1 先の世にも御ちぎりや深かりけむ、
世になくきよらなる玉の男御子「みこ」さへ
生まれ給ひぬ。

〔源氏物語〕

前世でも御（縁）が深かったのであろうか、
たとえようもなく美しい玉のような皇子様までも
お生まれになつた。

2 昔のちぎりありけるによりなむ、
この世にまうで来たる。

〔竹取物語〕

「かぐや姫は」昔の因縁があつたので
この世界に参りました。

3 ちぎりおく花とならびのをかのへに
あはれ幾世の春を過ぐさむ

〔兼好法師家集〕

「ある女性と」（約束）して、桜の木と並んで
双ヶ丘「ならびがおか：地名」に「墓を作つたが」、
ああ私はあと幾世の春を過ぐすことであろうか

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編20
つれづれなり

年 組 氏名

つれづれなり	① 所在ない（退屈だ 手持ち無沙汰だ）
	② どうしようもなく、ひとり物思いに沈む様子

【解説】

- ・もともとは「連れ連れ」と書き、同じ状態が連続している様子をいいます。
- ・一番覚えやすい訳は「退屈だ」ですが、どんな場面にも訳として使えるのは「所在ない」です。少し難しい言葉ですが、がんばって覚えましょう。
- ・「つれづれなるままに…」という文から始まる、吉田兼好の随筆の題名は？
そう、『徒然草』ですね。手持ち無沙汰な時間に書かれたということです。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「『つれづれ草』の授業は、所在ない。」

<p>2</p> <p>つれづれなるままに、 日暮硯に向かひて…</p> <p>《現》</p> <p style="text-align: right;">「徒然草」</p>	<p>1</p> <p>僧たちが、宵のつれづれに、 『いぎ、かいもちせん』といひけるを…</p> <p>「宇治拾遺物語」</p>	<p>【問題】</p> <p>「つれづれなり」の意味を参考に、（ ）にあてはまる言葉を答えなさい。</p> <p>《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
---	--	---

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編20
つれづれなり

年 組 氏名

つれづれなり	① 所在ない（退屈だ 手持ち無沙汰だ）
	② どうしようもなく、ひとり物思いに沈む様子

【解説】

- ・もともとは「連れ連れ」と書き、同じ状態が連続している様子をいいます。
- ・一番覚えやすい訳は「退屈だ」ですが、どんな場面にも訳として使えるのは「所在ない」です。少し難しい言葉ですが、がんばって覚えましょう。
- ・「つれづれなるままに…」という文から始まる、吉田兼好の随筆の題名は？
そう、『徒然草』ですね。手持ち無沙汰な時間に書かれたということです。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「『つれづれ草』の授業は、所在ない。」

【解答】

1

僧たち、宵のつれづれに、
『いざ、かいもちせん』といひけるを…
〔宇治拾遺物語〕

僧達が、夜の（所在なさ）に、
『さあ、ぼた餅を作ろう』と言ったのを…

2

つれづれなるままに、
日暮硯に向かひて…

〔徒然草〕

一日中硯に向かかって、
退屈で、

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編21 のたまふ

年 組 氏名

のたまふ [尊敬語] おっしゃる

【解説】

- ・「告る(のる)」の尊敬表現で、漢字では「宣ふ」と書きます。
- ・目下の者から、目上の人に対する尊敬語です。
- ・現代仮名遣いでは「のたもう」です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「『乗った、もう』とおっしゃる。」

【問題】

「のたまふ」の意味を参考に、()にあてはまる言葉を答えなさい。
《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 『娘をわれにたべ』と、ふし拝み、手をすりのたまへど…

〔竹取物語〕

と、『貴公子達は』『娘さん』『かぐや姫』を、私に下さい。』

〔が…

2 思ひのごとくものたまふかな。

〔竹取物語〕

《現》

3 答えてのたまふやう、燕の持たる子安貝を取らむ料なり』とのたまふ。

〔竹取物語〕

と、『中納言が』答えて()。子安貝を取ろうとするためだ。』

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編21 のたまふ

年 組 氏名

のたまふ [尊敬語] おっしゃる

【解説】

- ・「告る（のる）」の尊敬表現で、漢字では「宣ふ」と書きます。
- ・目下の者から、目上の人に対しての尊敬語です。
- ・現代仮名遣いでは「のたもう」です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「『乗った、もう』とおっしゃる。」

【解答】

1 『娘をわれにたべ』と、ふし拝み、
手をすりのたまへど…

「竹取物語」

と、『貴公子達は』
娘さん、かぐや姫』を、私に下さい。』
と、拝み、手をこすり合わせて（おっしゃる）が…

2 思ひのごとくものたまふかな。

「竹取物語」

思っているようにおっしゃったよ。

3 答えてのたまふやう、
燕の持たる子安貝を取らむ料なり』
とのたまふ。

「竹取物語」

と、『中納言が』答えて（おっしゃる）ことには、
おつばめの持っている子安貝を取ろうとするためだ』
（おっしゃられた）。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編22 はづかし

年 組 氏名

はづかし	① 立派だ (優れている)
	② 気づまりだ (きまりがわるい)
	③ 恥ずかしい

【解説】

- ・現代仮名遣いでは「はずかし」です。
- ・現代語では③の意味で使うことが多いのですが、古くは「こちらが恥ずかしくなるほど相手が優れている」様子をさす①の意味で訳することが多いのです。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「はずかしくないよ、立派だよ。」

<p>3</p> <p>お似た 思つか いかわ になし くなく ていら っしや るので と</p> <p>「源氏物語」</p>	<p>3</p> <p>いと若 うおは すれば 、おぼ いなく たり。 はづか しと</p> <p>「源氏物語」</p>	<p>2</p> <p>ふ歌は とおづ ぼか えし たる、 わた れな がら うれ し。</p> <p>「枕草子」</p>	<p>1</p> <p>《現》</p> <p>赤染衛門は、はづかしき歌よみなり。 「紫式部日記」</p> <p>【問題】 「はづかし」の意味を参考に、()にあてはまる言葉を答えなさい。 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
---	--	---	--

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編22 はづかし

年 組 氏名

はづかし	① 立派だ (優れている)
	② 気づまりだ (きまりがわるい)
	③ 恥ずかしい

【解説】

- ・現代仮名遣いでは「はずかし」です。
- ・現代語では③の意味で使うことが多いのですが、古くは、こちらが気恥ずかしくなるほど相手が優れている様子をさす①の意味で訳することが多いのです。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「はずかしくないよ、立派だよ。」

【解答】

1 赤染衛門は、はづかしき歌よみなり。

〔紫式部日記〕

赤染衛門は、立派な歌詠みである。

2

はづかしき人の、歌の本末問ひたるに、ふとおぼえたる、われながらうれし。

〔枕草子〕

（立派）な人が、私に、ある。歌の上の句や下の句をたずねた時に、とつさに思い出したのは、われながらうれしい。

3

いと若うおはすれば、おぼげなく、おはづかしと

〔源氏物語〕

たいそう若くていらっしやるので、お似つかわなくていらっしやるので、お思ひになく、おぼげなくいらっしやるので

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編23 ふみ

年 組 氏名

ふみ	① 文書 (書物)
	② 手紙
	③ 学問 (特に漢学、漢詩)

【解説】

- ・「文」は、その字の通り「①文書」がもともとの意味です。
- ・個人的な文書ならば「②手紙」。
- ・特に男性の文書であるならば「③学問」です。
- ・また、平安時代の男性の学問は、「漢詩・漢学」が中心でした。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「ふみちゃんに漢詩の手紙を書いた。」

【問題】

「ふみ」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。
 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 ふみを書きおきてまからむ。

〔竹取物語〕

《現》

2 ありたきことは、まことしきふみの道。

〔徒然草〕

身につけておくべきことは、本格的な()の道。

3 大江山 いく野の道の遠ければ
 まだふみも見ず 天橋立

〔百人一首集〕

大江山を越え 生野を通っていく道も 遠いので
 まだ天橋立「あまのはしたて」の地も踏みはしていませんし
 母からの()も見ておりません。

※※ 「ふみ」は「踏み」と「文」の掛詞(かけことば)。
 「いく」は「生野」と「行く」の掛詞。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編23 ふみ

年 組 氏名

ふみ	① 文書（書物）
	② 手紙
	③ 学問（特に漢学、漢詩）

【解説】

- ・「文」は、その字の通り「①文書」がもともとの意味です。
- ・個人的な文書ならば「②手紙」。
- ・特に男性の文書であるならば「③学問」です。
- ・また、平安時代の男性の学問は、「漢詩・漢学」が中心でした。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「ふみちゃんに漢詩の手紙を書いた。」

【解答】

1 ふみを書きおきてまからむ。

「竹取物語」

手紙を書きおいておいとましましょう。

2 ありたきことは、まことしきふみの道。

「徒然草」

身につけておくべきことは
本格的な（学問）の道。

3 大江山 いく野の道の遠ければ

まだふみも見ず 天橋立

「百人一首集」

大江山を越え 生野を通っていく道も 遠いので
まだ天橋立の地も踏みはしていきませんし
母からの（手紙）も見えておりません。※※ 「ふみ」は「踏み」と「文」の掛詞。
「いく」は「生野」と「行く」の掛詞。

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編24 まらうど

年 組 氏名

まらうど	① 客（来訪者）
	② 主人
	③ もてなし（ごちそう）

【解説】

- ・まれにくるという「稀人[まれひと]」が変化して出来た言葉です。
- ・漢字では「客人」、現代仮名遣いでは「まらうど」です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「とまらうどする 客がいるから、もてなそう。」

【問題】

「まらうど」の意味を参考に、（ ）にあてはまる言葉を答えなさい。

1
にくきもの いそぐことある折に来て
長言するまらうど。

「枕草子」

嫌なもの、急ぐことがある時に着て
長話をする（ ）。

2

あるじも まらうども こと人も
言ひ合へりけり

「土佐日記」

主人も、（ ）も、他の人も
言い争ったのであった。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編24 まらうど

年 組 氏名

まらうど	① 客（来訪者）
	② 主人
	③ もてなし（ごちそう）

【解説】

- ・まれにくるという「稀人[まれひと]」が変化して出来た言葉です。
- ・漢字では「客人」、現代仮名遣いでは「まろうど」です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「とまろうとする 客がいるから、もてなそう。」

【解答】

1
にくきもの いそぐことある折に来て
長言するまろうど。

「枕草子」

嫌なもの、急ぐことがある時に着て
長話をする（客人）。

2
あるじも まらうども こと人も
言ひ合へりけり

「土佐日記」

主人も、（客人）も、他の人も
言い争ったのであった。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編25 むつまし

年 組 氏名

むつまし	① 親しい（親密である）
	② なつかしい（慕わしい 心がひかれる）

【解説】

- ・漢字では「睦まし」と書きます。
- ・親しみ、心ひかれ、懐く様子を意味する言葉です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「無痛〔むつう〕ましだな。痛くない歯医者に心ひかれる。」

【問題】

「むつまし」の意味を参考に、（ ）にあてはまる言葉を答えなさい。

1 おつましき限りは宵より集ひて、舟に乗りて送る。

〔おくのほそ道〕

集ま（ ）って、（ ）朝になつたら（ ）舟にのつて見送る。

2

見し人の空もけぶりを雲と眺むれば
夕べの空もむつましきかな

〔源氏物語〕

あの人（ ）死体を焼いた煙を雲だと思つて
眺めたら、この夕べの空も（ ）

（ ）

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編25 むつまし

年 組 氏名

むつまし	① 親しい（親密である）
	② なつかしい（慕わしい 心がひかれる）

【解説】

- ・漢字では「睦まし」と書きます。
- ・親しみ、心ひかれ、懐く様子を意味する言葉です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「無痛 [むつう] ましだな。痛くない歯医者に心ひかれる。」

【解答】

1
むつましき限りは宵より集ひて、
舟に乗りて送る。

「おくのほそ道」

（親しい）者はみな宵の口から
集まって、「朝になつたら」舟にのつて見送る。

2

見し人のけぶりを雲と眺むれば
夕べの空もむつましきかな

「源氏物語」

あの人への死体を焼いた煙を雲だと思つて
眺めたらこの夕べの空も（慕わしく）
感じるなあ。

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編26 めでたし

年 組 氏名

めでたし	① すばらしい 立派だ (魅力的だ 心ひかれる 立派だ 愛らしい)
	② 祝う価値がある。

【解説】

- ・愛する、賛美するという意味の「めづ」に、程度がはなはだしい様子をあらわす「いたし」が付いた「めでいたし」が変化した言葉です。
- ・「すばらしい」と覚えておくと、応用がききます。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「芽出[めで]た、自然[しぜん]は、すばらしい。」

<p>3</p> <p>男はよろづのことよりも、情あるこそ、 男はさらなり、 女もめでたくおぼゆれ。</p> <p>〔枕草子〕</p>	<p>2</p> <p>散ればこそいとど桜はめでたけれ うき世になにか久しかるべき</p> <p>《現》</p> <p>〔伊勢物語〕</p>	<p>1</p> <p>藤の花は、しなひ長く 色濃き咲きたる、 いとめでたし。</p> <p>〔枕草子〕</p>	<p>【問題】</p> <p>「めでたし」の意味を参考に、()に あてはまる言葉を答えなさい。 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
---	--	--	---

[古文シリーズ 2ndステップ 初級] ことば編26 めでたし

年 組 氏名

めでたし	① すばらしい 立派だ (魅力的だ 心ひかれる 愛らしい)
	② 祝う価値がある。

【解説】

- ・愛する、賛美するという意味の「めづ」に、程度がはなはだしい様子をあらわす「いたし」が付いた「めでいたし」が変化した言葉です。
- ・「すばらしい」と覚えておくと、応用がききます。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「芽出[めで]た、自然[しぜん]は、すばらしい。」

【解答】

1 藤の花は、しなひ長く
色濃き咲きたる、
いとめでたし。

〔枕草子〕

藤の花は、しなやかに「花房が」長く
濃い色で咲いていらるが。
た濃いろは、すばらしい。

2

散ればこそいとど桜はめでたけれ
うき世になにか久しかるべき

〔伊勢物語〕

散るからこそいっそう桜はすばらしい
このつら世の中で
何か変わらぬものがあるだろうか

3

よろづのことよりも、情あるこそ、
男はさなり、
女もめでたくおぼゆれ。

〔枕草子〕

どんなことよりも、思いやりの心こそ
男はいうまでもなく、
女でも（価値がある）と思われる。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編27
やむごとなし

年 組 氏名

やむごとなし	① 捨ててはおけない (のっぴきならない やむをえない)
	② 並々ではない (格別だ ひとつおりでない)
	③ 尊い (高貴である おそれおおい)

【解説】

- ・「止むこと無し」が変化してできた言葉です。
- ・「捨てておくことができない、放置できない大切なもの」を意味します。
- ・現代仮名遣いでは「やんごとなし」です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「やむことのない拍手は、尊い。」

3	2	1	<p>【問題】</p> <p>「やむごとなし」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。</p>
<p>『宮中にちようど() と言つて、出ようとするときに…』 ()用事がある』</p> <p>『蜻蛉日記』</p>	<p>まことにやむごとなき誉れありて、 人の口にある歌多し。</p> <p>〔徒然草〕</p>	<p>いみじくやむごとなく、かたちありさま、 物語にある光源氏などのやうに おはせむ人…</p> <p>〔更級日記〕</p>	
<p>『内裏にしもやむごとなきことあり』 とて、出でむとするに…』</p>	<p>〔近衛という女性は〕 本当に() 世の人が好む歌が多い。 ()名声があつて、</p>		

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編27
やむごとなし

年 組 氏名

やむごとなし	① 捨ててはおけない (のっぴきならない やむをえない)
	② 並々ではない (格別だ ひとつおりでではない)
	③ 尊い (高貴である おそれおおい)

【解説】

- ・「止むこと無し」が変化してできた言葉です。
- ・「捨てておくことができない、放置できない大切なもの」を意味します。
- ・現代仮名遣いでは「やんごとなし」です。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「やむことのない拍手は、尊い。」

【解答】

1
いみじくやおむごとなく、かたちありさま、
物語にある光源氏などのやうに
おはせむ人…

〔更級日記〕

たいそう（高貴な）身分で顔立ちや姿が、
物語の光源氏などのやうに
いらつしやる人…

2
まことにやおむごとなき誉れありて、
人の口にある歌多し。

〔徒然草〕

「近衛という女性は」
本当に（並々でない）名声があつて、
世の人が好む歌が多い。

3
『内裏にしもやおむごとなきことあり』
とて、出でおとするに…

〔蜻蛉日記〕

『宮中にちようど（捨てておけない）用事がある』
と言つて、出ようとするときに…

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編28 よろづ

年 組 氏名

よろづ	① 万 (千の十倍 数の多いこと たくさん いろいろ)
	② すべてのこと (万事 なんでも)

【解説】

- ・漢字では「万」と書きます。
- ・現代仮名遣いでは「よろず」です。
- ・現代においても、どんな仕事でも引き受ける人のことを「よろづ屋」と呼びますね。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「よろづ屋は、なんでも売ってる店ですよ。」

【問題】

「よろづ」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。
 《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。

1 野山にまじりて竹をとりつつ
 よろづのことに使ひけり。

〔竹取物語〕

《現》

2 やまと歌は、人の心を種として
 よろづの言の葉とぞなれりける。

〔古今和歌集〕

(和歌は、人の心情を根本にして)の言葉となったのである。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編28 よろづ

年 組 氏名

よろづ	① 万（千の十倍 数の多いこと たくさん いろいろ）
	② すべてのこと（万事 なんでも）

【解説】

- ・漢字では「万」と書きます。
- ・現代仮名遣いでは「よろず」です。
- ・現代においても、どんな仕事でも引き受ける人のことを「よろづ屋」と呼びます。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「よろづ屋は、なんでも売ってる店ですよ。」

【解答】

1

よ 野山にまじりて竹をとりつつ
よろづのことに使ひけり。

〔竹取物語〕

い 野や山に分け入って竹を取っては
よろづのことに使っていた。

2

よ やまと歌は、人の心を種として
よろづの言の葉とぞなれりける。

〔古今和歌集〕

和歌は、人の心情を根本にしたので
（たくさん）の言葉となったのである。

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編29 ゐる

年 組 氏名

ゐる	[居る] 座る (じつと~している)
	[率る] 連れて行く (伴う)

【解説】

- ・現代仮名遣いでは「いる」です。
- ・人間以外のものが主語の時は、「鳥がとまっている」「舟がとまっている」などのように訳しますが、人間が主語のときの多くは「座っている」意味になります。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「座っているか、連れて行く。」

<p>3</p> <p>おそろしと思へども、すべきやうもなく みたれば、おのおのみなぬ。</p> <p>〔宇治拾遺物語〕</p> <p>おそろしいと思ったが、どうしようもなく めいめいみんな()ていと、「鬼達も」 めた。</p>	<p>2</p> <p>いとうつくしうて あたり。</p> <p>〔現〕</p> <p>〔竹取物語〕</p>	<p>1</p> <p>いづら、猫は。 こちゐて来。</p> <p>〔更級日記〕</p> <p>どこなの、猫は。 こちらへ()来て。</p>	<p>〔問題〕</p> <p>「ゐる」の意味を参考に、()に あてはまる言葉を答えなさい。 〔現〕とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
---	--	---	---

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編29 ゐる

年 組 氏名

ゐる	[居る] 座る (じつと～している)
	[率る] 連れて行く (伴う)

【解説】

- ・現代仮名遣いでは「いる」です。
- ・人間以外のものが主語の時は、「鳥がとまっている」「舟がとまっている」などのように訳しますが、人間が主語のときの多くは「座っている」意味になります。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「座っているか、連れて行く。」

【解答】

1 いづら、猫は。
こちめて来。

〔更級日記〕

どこな、猫は。
こちらへ（連れて）来て。

2 とうつくしうて あたり。

〔竹取物語〕

とてもかわいらしい様子で座っていた。

3 おそろしと思へども、すべきやうもなく
おたれば、おのおのみなぬ。

〔宇治拾遺物語〕

おそろしと思つたが、どうしようもなく
め（座つ）ていゝと、鬼達も
いめいみんな（座つ）た。

※意味を思い浮かべながら、古文の音読練習を繰り返しましょう。

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編30 をかし

年 組 氏名

をかし	① 興味がある（興味ぶかい）
	② 美しい（かわいい すばらしい）
	③ 趣深い（風流だ）
	④ こっけいだ

【解説】

- ・「趣味がよく、センスがある」ことを「③趣深い」と形容します。
- ・「をかし」と感じることを随筆『枕草子』に書きとめたのが、清少納言です。このことにより『枕草子』は「をかしの文学」とも呼ばれます。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「京都のお菓子、趣ぶかい。」

3	2	1	<p>【問題】</p> <p>「をかし」の意味を参考に、() にあてはまる言葉を答えなさい。</p> <p>《現》とあるものは全体を現代語に直しなさい。</p>
<p>性格なども()</p> <p>心ばへなどもをかしかりければ</p> <p>()たので</p> <p>〔今昔物語〕</p>	<p>いとをかしげなるおよびに</p> <p>いとらへて、大人ごとに見せたる</p> <p>いとらへて、大人ごとに見せたる</p> <p>〔枕草子〕</p>	<p>雁などの連ねたるが</p> <p>いと小さく見ゆるは</p> <p>〔枕草子〕</p>	
		《現》	
<p>小さな子どもが</p> <p>とてまも()</p> <p>とつてもかわいらしい。見せるの指は</p>			

〔古文シリーズ 2ndステップ 初級〕 ことば編30 をかし

年 組 氏名

をかし	① 興味がある（興味ぶかい）
	② 美しい（かわいい すばらしい）
	③ 趣深い（風流だ）
	④ こっけいだ

【解説】

- ・「趣味がよく、センスがある」ことを「③趣深い」と形容します。
- ・「をかし」と感じることを随筆『枕草子』に書きとめたのが、清少納言です。このことにより『枕草子』は「をかしの文学」とも呼ばれます。

<楽しみながら覚えよう!>

- ・「京都のお菓子、趣ぶかい。」

【解答】

1 雁などの連ねたるが
いと小さく見ゆるは
いとをかし。

〔枕草子〕

雁などが列を作って飛ぶのが
たいそう趣深い。見えるのは

2 いとをかしげなるおよびに
いとらへて、大人ごとに見せたる
いとつくし

〔枕草子〕

「小さなこどもが」
とつても（かわいらしい）指では
とつても（かわいらしい）指では
とつても（かわいらしい）指では

3 心ばへなどもをかしかりければ
「今昔物語」

性格なども（すばらしかった）ので